

平成 28 年度

課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）

に関する調査研究プロジェクト（ALPS）

研究報告書

はじめに～感謝とお礼

旭川市立朝日小学校 校長 中山 雅文

昨年末の中教審の答申で、学習指導要領等改定の基本的な方向性が示されました。その第7章のように学ぶか - 各教科等の指導計画の作成と実施, 学習・指導の改善・充実 - に、「主体的・対話的で深い学び」を実現することの意義が示され、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の必要性が述べられています。

このような中、本校は課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）に関する調査研究プロジェクト推進地域における実践推進校として、連携協力校の優秀な教員とともに研究組織ALPS（アクティブ・ラーニング・プロジェクト・スタッフ）を組織し、平成27年度から2年間にわたり楽しく充実した研究を進めることができましたことに感謝いたします。

特に今年度は、昨年度ALPSで作成した「アクティブ化シート」をもとに単元の指導計画や指導案を作成し数多くの授業実践を行いました。

その中で、生徒指導の重要性や学級経営の充実なくして、アクティブ・ラーニング型の授業はありえないことを確信しました。遠回りであるかもしれませんが、まずは世界に冠たる日本の教師の指導能力の一つである学級づくりが大切であることがわかりました。

今年度、「アクティブ化シート」をもとに実践した34の授業では、子どもたちが意欲をもって主体的・対話的で深い学びを進めていく姿が見られるなど、その成果を実感することができました。

完璧な授業ということはありません。研究授業を通して改善すべき点を常に洗い出し、ブラッシュアップした指導案を作成するとともに、よりよい授業をめざしていく過程で、昨年度作成した「アクティブ化シート」についても、よりわかりやすく使いやすい「思考アクティブ化シート」として作り直しました。

2年間の研究ということで、授業実践についても、まだまだ十分な状況となっていないのが残念であります。また、アクティブ・ラーニング型の授業での評価の在り方についても研究が不十分ではありますが、この後、「思考アクティブ化シート」を活用した数多くの実践が展開され、研究が広がり深まることを期待します。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたって、ご指導、ご支援いただきました北海道教育委員会、旭川市教育委員会、北海道立教育研究所、北海道教育大学旭川校、上川教育研修センター、北海道教育大学附属旭川小学校・中学校の皆様をはじめ、ともに研究を進めてきた連携推進校の旭川市立永山西小学校・旭川市立大有小学校・旭川市立青雲小学校・旭川市立近文小学校・旭川市立新町小学校の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

目 次

□ はじめに

□ 目 次

I 1年次の研究

- 1 研究概要・成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 2 「アクティブ化シート」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2

II 2年次の研究

- 1 平成28年度の研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
- 2 平成28年度のALPSの活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8
- 3 「アクティブ化シート」の実践化・・・・・・・・・・・・P9
 - (1)「アクティブ化シートA」の実践化における成果と課題・・・・・・・・P10
 - (2)「アクティブ化シートB」の実践化における成果と課題・・・・・・・・P10
 - (3)ALの視点を取り入れた授業づくりのために・・・・・・・・P11
- 4 「思考アクティブ化シート」・・・・・・・・・・・・・・・・P12
 - (1)思考アクティブ化シートA・・・・・・・・・・・・・・・・P12
 - (2)思考アクティブ化シートB・・・・・・・・・・・・・・・・P15

III 実践資料集

□参考文献・参考資料

□あとながき，研究同人

I 1年次の研究

I 1年次の研究

1 昨年度の研究概要・成果と課題

昨年度より北海道教育委員会の指定を受け、実践推進校（旭川市立朝日小学校）を中心に、連携協力校5校（旭川市立新町小学校、旭川市立青雲小学校、旭川市立大有小学校、旭川市立近文小学校、旭川市立永山西小学校）と共に「課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）に関する調査研究プロジェクト」チーム（略称ALPS）を組織し、子どもの将来に生きて働く力を養うため「アクティブ・ラーニング（以下AL）の視点を取り入れた授業改善」についての研究・発信をねらいとして研究を推進している。

(1) 成果

昨年度の成果としては、ALの理論について学び、ALを取り入れる基盤として「学級経営の重要性」「アクティブ化シートの作成」（P2～「2 アクティブ化シート」参照）「環境整備の必要性」についてまとめ、全道に発信した。

①学級づくり

ALは、情報を他者と共有しながら、対話を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解したり相手の考えに共感したりして、協力しながら問題を解決していく手段である。つまり、教師や他の子どもたちとのつながりが必至である。ALを取り入れた学習指導（単元開発や教材分析等）ばかりに力を注いでも、期待する効果は得られない。教師は目の前の子どもたちに応じたファシリテーターとしての役割が求められ、今まで以上に普段からの確かな児童理解を積み重ね、子どもたちとの信頼関係を築くことが前提となってくる。また、子ども同士が心を通わず、望ましい学級集団をつくるためには、「居場所づくり」「絆づくり」「自己有用感に裏付けされた自尊感情の醸成」の3点を意識した学級経営が重要となる。望ましい学級集団がALの効果を高め、資質・能力の育成の獲得につながるだけでなく、ALを意識した学習指導が、望ましい学級集団への変容にもつながっていくと考えている。

②アクティブ化シート

ALの視点を取り入れた授業を考える上で注意すべきことは、パターン化したり、型にはめたりすることではない。子どもの思考を活性化させるためには、時として暗記・再生が重視される学習も必要であり、全授業をALの視点で行えるものではないとおさえている。要は、今まで以上に資質・能力を育成する意識をもって、教師がねらいを明確にし、見通しをもってバランスよく授業づくりを行うことができるかである。これからは、ALの視点を取り入れた学習を日常化していくことが求められている。そこで、ALの日常化を図るため、今までの授業に取り入れるALのポイントをまとめた「アクティブ化シート」（A：単元レベル、B：一単位時間レベル）を作成した。単元の学習過程を示したものを「アクティブ化シートA」、一単位時間の学習過程を示したものを場面毎に分けて「アクティブ化シートB」（①課題重視型、②対話重視型、③振り返り重視型）の4種類である。

③環境整備

ALを効果的に推進していくためには『人的環境』（よりきめ細やかな児童理解、学習指導のための教員の少人数・TT加配や教員の研修推進を補助する加配教諭の配置）、『物的環境』（子どもの主体的な学びを促し、対話的な学びにおいて効果が期待される大型テレビやアクティブボード、PC、iPad等のタブレット端末、Wi-Fi環境等の整備）、『研究旅費』（ALを推進していくためには教師自身が各教科・領域の特性を深く理解し、これから子どもが成長するに当たって必要となる今日的な情報に触れる、幅広い研修に参加するための旅費の確保）の推進が早急に求められる。以上のようなハード面の整備がなければ、ALを取り入れた学習の推進は難しいと考える。

(2) 課題

昨年度は、アクティブ化シートを活用した魅力的な単元開発や授業実践については、まだ十分な実践検証ができていない状況にあるが、以下の点について課題がみられた。

教師のかかわり

教師が子どもに思考する時間を十分に与えることができない。それは、必要以上に丁寧な説明や困り感がないにも関わらずヒントを与えるなど過剰な教師のかかわりが要因と考えられる。教師のかかわり（話）を整理し、簡素化できるかが、ALのポイントになる。

課題解決型 (アクティブ・ラーニング) 授業 『アクティブ化シート A (単元レベル) 』

| | | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 |
|--------|------------|--|--|
| 一 次 | 事象との出会い | <p>○具体的な体験や活動を通してテーマへの疑問や関心をもつ。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><個> あれ?なぜ?どうして?どうやって? すごい!おもしろい!やってみたい!できるように なりたい!自分にもできそう!</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><学級全体> みんなて解決したい!みんなとわかりたい!</p> </div> | <p>□実体験 (本物に触れる, 見る・実際にやってみる) や間接的な体験 (資料や映像を見る) などの共通体験の場面を設定する。</p> <p>□事象との出会いは「子どもにとって身近なもの」「子どもの疑問, 気付き, 予想などが生まれやすいもの」「興味・関心を誘発するもの」を扱う。</p> <p>□子どもが課題意識, 目的意識などが生まれやすい「発問」を工夫する。</p> <p>□子どもに既存の知識や経験では対処できないような「ズレ」を感じさせたり, 「あこがれ」や「可能性」を感じさせたりするように「事象との出会わせ方」や「発問」を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(協動的な学び) 課題の共有化 協働で学が意欲化</p> </div> |
| | 課題をつかむ | <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>*単元を貫くような課題 (単元のゴール) を明確に設定する。</p> </div> <p>○子ども自らが解決すべき課題を明確にする</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><個> ~をしらべたい。~を確かめてみたい。</p> </div> <p>○学習課題への解決の見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p><個> ~すれば解決できそうだ。~を使って調べたい。~さんに聞いてみよう。~するためには~を知りたい。~するのにこれくらいの時間がほしい。</p> </div> | <p>□子どもにとって学習する「必然性のある課題」「目的が明確な課題」になるよう工夫する</p> <p>□〈個の思い〉から〈学級全体の課題〉へと収束していく。(子どもの言葉からキーワード的に)</p> <p>□どこに向かって学習が進んでいくのかという方向性(ゴール)のイメージを子どもにもたせる。</p> <p>□具体的な学習計画を子どもと共に立てる。</p> <p>□単元を通して育てたい資質・能力に沿って, 調べ方, 学び方を提示し, 子どもが選択(方法・対象など)するなど, 教師の関わり方が重要である。</p> |
| 二 次 | 追究解決 | <p>○計画をもとに追究, 解決活動を行う。</p> <p>○協動的な学びを通して, 学びを深めていく。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><個>~自分が「何を」わかったのか そうなんだ!わかった!できた! 自分はこう考えるな。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><複数人(グループ・ペアなど)> ~対話・説明・教え合う・批判的思考 ~は~ということだったよ。~するためには~すればいいんだよ。~さんが言っていることは~ということだね。これっていいのかな?他に方法(考え方)はないかな!</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p><全体>~得た情報・知の妥当性の検討 つまり~ということだね。共通点は~ということだね。~ということが明らかになったね。</p> </div> | <p>□追究活動は必ず交流活動を意識して進め, 課題解決が協動的に図られるよう工夫する。</p> <p>□子どもの思考の流れに沿い, 十分な時間を保障する。</p> <p>□「必然性のある学び」「目的意識の継続化」「参画意識を高める」学びになるよう目的に合わせて〈個〉〈ペア〉〈グループ〉などの学習形態を工夫する。</p> <p>□子どもの「思考の流れが見える」ように工夫する。(模造紙・ホワイトボード・付箋紙・ICT等)</p> <p>□「子どもの見取り」を適切に行い, 目標達成に困り感のある子どもへの「支援の手立て」を明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(協動的な学び) 学びの深化 学びの拡張 思考の活性化</p> </div> |
| | 交流 | <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>*単元のゴールとしての子どもの変容した姿を設定する。</p> </div> | <p>□交流場面が自力解決の集合体にならないよう, 協働的交流が生まれるように工夫する。</p> <p>□キーワードを基に, 課題と正対したまとめになるように促す。</p> |
| 三 次 | まとめ | | <p>□学びの自覚化を促し, 学びの有用感もてるよう工夫する。</p> <p>□自分の獲得した知の妥当性と有効性を批判的に評価し次の学習へのプロセスへと活かしていくよう工夫する。</p> |
| | 振り返り 吟味 | <p>○単元を通して学んだことを自覚し, 学び方を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p><個>~ができる(わかる)ようになった! ~というときは ~調べたい!よかった!</p> </div> | |

課題解決型（アクティブ・ラーニング）授業『アクティブ化シート B-①』

II 一単位時間レベル【「課題意識」重視】

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 |
|--|---|--|
| <p>導 入 20～25分</p> | <p>○強い意欲・動機付けとなる事象と出会う。</p> <p>○具体的な体験や活動を通してテーマへの興味・関心、疑問をもつ。</p> <p>○芽生えた思いから、学習課題へつなげる。</p> <p>○子ども自らが解決すべき課題を明確にする。</p> | <p>□子どものよりどころを把握する。（日常生活、生活経験、生活体験、既習事項など）</p> <p>□課題意識をもたせるために工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を通じた事象（もの・こと）との出会い ・試行活動を取り入れた出会い ・人との出会い ・過去の経験を想起させる（ICT 機器の活用も） ・日常生活における困り感から ・様々な資料を提示して（客観的なデータや画像などから疑問を表出させる） ・ダイレクトな課題との出会い <p>□出会いから課題を明確にするために工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芽生えた課題意識を強く、明確にするために発問を工夫する。 ・これまで自分がもっていた考えとのズレや違いを認識させ、課題を明らかにする。 ・出会いを通して気付いたことや疑問を交流し合う中で課題を明らかにする。 ・事象や人との出会いを通して感じた夢やあこがれ、挑戦、理想を課題につなぐ。 <p>□課題の共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出てきた疑問や課題を整理・分析し、全体の課題として精選していく。 ・課題性の優先順位を考え、解決への必要感の高い課題から全体のものとして共有する。 ・「問い」の目的化、主体化をする。 |
| <p>*課題の決定「単元全体（「単元のゴールイメージ）がもてる課題」「発展性・連続性がある課題」</p> | | |
| <p>展 開 10～15分</p> | <p>○学習課題への解決の見通しを立てる。</p> <p>○次時からの具体的な手立てを考える。</p> | <p>*課題設定重視では、この段階が追究ではなく【見通しをもつ】段階になる。</p> <p>□課題解決を主体的なものにするために工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項、過去の経験を基に解決の方法を考えさせる。 ・追究の方法を具体的に考えさせる。 ・解決に向けて必要なものや事柄を考えさせる。 ・追究結果の仮説や予想を立てさせる。 ・まとめ方や表現の仕方を考えさせる。 <p>*課題設定重視ではこの段階がまとめではなく「次時への意欲化」になる。</p> <p>□学習形態や学習活動の進め方を確認する。</p> <p>□グループなどで行う場面には役割分担なども行う。</p> <p>□予想や学習の進め方をノートに整理する。</p> |
| <p>終 末 5～10分</p> | <p>○単元全体の見通しをもてたか、振り返る。</p> | <p>□課題が明確になったかどうかを振り返るための視点を工夫する。</p> <p>(例)・自分の課題が明確になったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題をはっきりさせるために何がよかったのか ・学習計画を立てるために有効だったこと、難しかったこと ・自分の今日の学びのよさ、友達のよさ |

課題解決型（アクティブ・ラーニング）授業 『アクティブ化シート B-②』

II 一単位時間レベル【「対話」重視】

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 |
|---|---|--|
| 導入 1～3分 | <p>○学習計画を確認したり、これまでの学習を振り返り、課題意識の自覚化を図る。</p> <p>○解決への見通しをもつ。</p> | <p>□「単元の学習課題との関連」を意識させる。</p> <p>□前時で解決できなかったことや新たな疑問として明らかになったことなどを基に課題を設定する。</p> <p>□短時間で「つかむ」ことができる工夫をする。</p> <p>□今日の学習のポイントを明確にする。</p> |
| <p>*本時のめあて～本時の「活動内容」と「到達目標」を明示する。</p> | | |
| 展開 25～35分 | <p>○課題解決に向けて資料を集めたり、操作したり、体験をしたりなどして得られた結果から、協動的な学習を通し、自分なりに課題に対しての考えをもつ。</p> <p>○自力解決を基とし、ペア、小グループ、学級全体と適時交流し、解決への方向性の確認、修正を図りながら思考の拡散、収束を行っていく。</p> <p>自力解決～「自分が「何が」わかったか、できたのか」を意識する。</p> <p>ペア・小グループ解決～一緒にやってみる、一緒に調べる、伝え合う、説明し合う、教え合うなどの活動をとおり、課題解決に取り組む。</p> <p>全体交流～情報を共有したり、未知のことに気付いたり、相違点や妥当性を見つけたりしながら思考を広げ、深めていく。</p> <p>○学級全体で課題を解決し、価値の共有化、一般化を行う。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> | <p>□思考が深まっていくよう十分な時間を保障する。</p> <p>□協働的に学ぶ場面を意図的に設定する。</p> <p>□子ども同士がつながる手立てをとっていく。</p> <p>□子どもの思考の流れを可視化するために思考ツールを活用する。</p> <p>□目標達成に困り感のある子どもへの「支援の手立て」を明らかにする。</p> <p>□子どものよりどころとなるアイテムを用意する。(既習事項・iPad・資料)</p> <p>□おおむね到達できた児童への「発展的な課題」や「揺さぶり」の工夫をする。</p> <p>□思考の「収束」または「拡散」への具体的な手立てを工夫する。</p> <p>□交流が自力解決の「発表会」にならないように「交流の視点」を明確にし、相互交流が生み出されるよう工夫する。</p> <p>□子どもの言葉を生かしながらまとめをする。</p> |
| <p>*本時のゴール～授業のゴールでの「児童の具体的な姿」を明示する。</p> | | |
| 終末 1～3分 | <p>○自分の学びの姿や学びの価値、学びの定着を振り返る。</p> | <p>□「自分の学びの姿」や「学びの価値」について振り返らせ、次の時間への期待を持たせたり、意欲化を図ったりする。</p> <p>□単元全体との関係を確認させる。</p> |

課題解決型（アクティブ・ラーニング）授業『アクティブ化シート B-③』

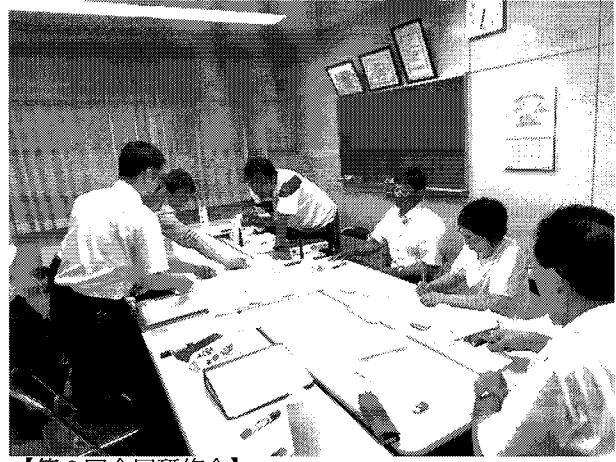
II 一単位時間レベル【「振り返り」重視】

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 |
|--|--|--|
| 導入 3～5分 | <ul style="list-style-type: none"> ○前時までに獲得した知識・技能等について確認する。 ○提示された事実等により、既習の知識・技能では対応できないことを本時の問いとして明らかにする。 | <ul style="list-style-type: none"> □本時の追究意欲や学ぶ必然性に関する知識・技能について確認する。 □既習の知識だけでは解決できない新たな事実を提示することにより、課題解決への意欲をもたせる。 |
| 学習課題・めあて | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○既習の知識と組み合わせて課題を解決するために必要な情報を選択し、解決への方向や方法を見通す。 | <ul style="list-style-type: none"> □課題解決のために必要な条件などを明らかにし、子どもたちが方向や方法に見通しがもてるよう適切な資料提示や助言等を行う。 |
| 展開 20～35分 | <ul style="list-style-type: none"> ○課題の自力解決に向け、必要な資料を集めたり、操作したりして得られた結果や既習内容を用いながら思考・判断する。 ○解決した方法や内容について小グループ等で表現し合い、自力解決した内容の修正や補強を行う。 ○課題解決に向け、学級全体で既習内容や技能だけでは解決できなかったことについての考えを交流し合い、協働的に学習課題を解決する。 ○自らの言葉で課題解決した内容をまとめる。 ○ 学習内容をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> □見通しの段階で提示された方法や既習内容・必要な資料等を示しながら、個々に一定の自力解決が図られるよう配慮する。 □小グループ内での発表会にとどまらず、方法や内容を互いに評価できるよう、短時間で視点を絞った交流とするなど工夫を行う。 □個別に解決した内容が平行ではなく、関係付くような発問や資料提示などを行い、課題が協働的によりよく解決されるようなかかわり方を吟味する。 □課題に対して集団解決した内容を自分の言葉でまとめられるよう促す。 □解決した内容を揺さぶったり、視点を変えた見方を促したりするような資料や事実の提示を行い、まとめた内容が補強されたり、考え方が高まるようなかかわり方を工夫する。 |
| ここでのまとめは、獲得した知識を教師の意図的な意味付けを反映させて、一般化するよう工夫する。 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○生活や社会、未来とのつながりを意識した働きかけを工夫する。 |
| 終末 3～5分 | <ul style="list-style-type: none"> ○獲得された知識・技能や身に付けた資質・能力を自覚したり、共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> □高まった見方や考え方を具体的に示し、身に付いた資質・能力を自覚できるような自己評価活動を促す。 |



【第1回合同研修会】

「アクティブ・ラーニング」についてイメージの共有化を図っている様子



【第2回合同研修会】

「主体的」な学び「協働的」な学びとするための指導の工夫について付箋紙を使いながら協議を行っている様子



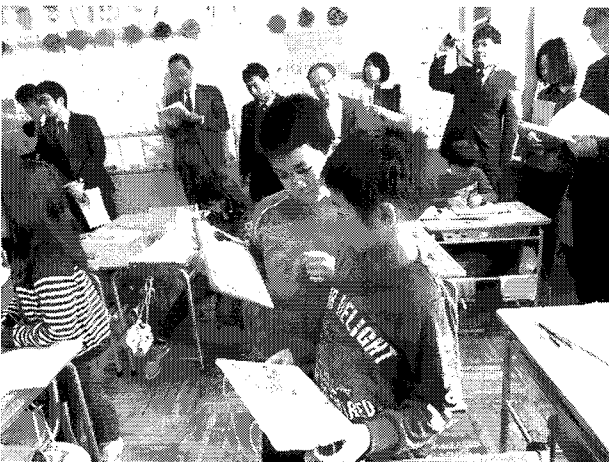
【実験授業① 5年理科「ふりこ」】

これまで学習してきたふりこの規則性を生かし、自分たちで実験方法を考えて、1秒に近づけるために話し合いながら実験に取り組んでいる様子



【第6回合同研修会】

実験授業①の指導案検討。アクティブ化シートB-②を活用しながら、導入をいかに短時間で課題意識を持たせるか等協議している様子



【実験授業② 3年算数「三角形」】

円や折り紙を使ってどうして二等辺三角形ができるか、自分の考えをホワイトボードに書いて、友達と交流している様子



【第2回推進地域連携協議会・調査研究報告会】

愛知教育大学教授 野田敬敬氏をお迎えし、シンポジウム「アクティブ・ラーニングをどのように進めていくのか」を開催している様子

平成27年度ALPS活動の詳細については、旭川市立朝日小学校ホームページ「アクティブ・ラーニング情報」(<http://www.asahikawa-hkd.ed.jp/asahi-els>)をご覧ください。

Ⅱ 2年次の研究

Ⅱ 2年次の研究

1 平成28年度の研究の目的

- アクティブ化シートの授業実践化
- アクティブ化シートの改善

研究の目的の一つ目は、昨年度からの課題である「アクティブ化シート」全シートを活用した授業実践を行うことである。様々な教科・領域で行い、アクティブ化シートの実用性を明らかにするとともに、ALを取り入れた授業の具体を示していくことである。

二つ目は、授業実践を通して、より汎用性の高い「アクティブ化シート」に改善を図ることである。経験の浅い教師でも取り組み、多忙な教師が日常的に活用できるようなアクティブ化シートに改善していくことである。

そして、実践推進校のみならず、連携協力校でも授業実践を行い、ALを取り入れた授業改善の在り方を多くの教師に広めていくため、本研究を推進した。

「アクティブ・ラーニング」の視点とは

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするためには、子供たちが「どのように学ぶか」という学びの質が重要になる。

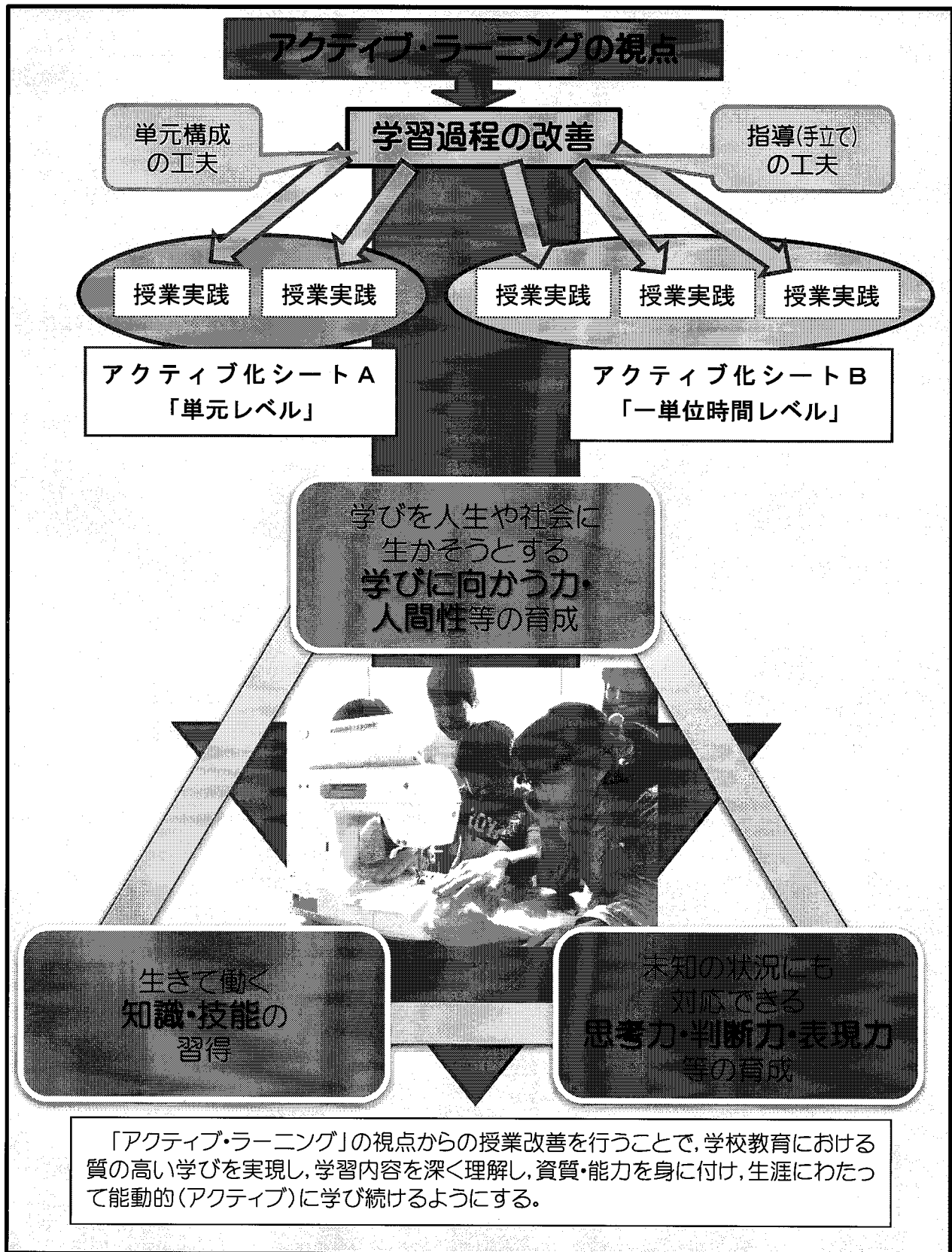
学びの質は、子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結びつけたり、多様な人との対話で考えを広げたり、各教科等で身に付けた資質・能力を様々な課題の解決に生かすよう学びを深めたりすることによって高まると考えられる。こうした「主体的・対話的で深い学び」が実現するように、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取組を活性化しようとするのが、「アクティブ・ラーニング」の視点である。

これは、形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちそれぞれの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様な質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである。

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(第1部)」

(H28.8.26)より抜粋)

【アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について（イメージ）】



2 平成28年度のALPSの活動

- 第1回合同研修会（4月25日）～本会の趣旨の理解，年間スケジュールの確認
- 第2回合同研修会（5月10日）～今年度の研究内容の共通理解，アクティブ化シートの確認
- 研究授業（5月10日）～朝日小 6年理科「人や他の動物の体」
 - 研究授業（6月13日）～永山西小 6年国語「この絵，私はこう見る」
- 第3回合同研修会（6月15日）～研究授業反省
- 研究授業（6月15日）～朝日小 2年算数「長さ」3年書写「たて画」
 - 研究授業（6月23日）～新町小 2年国語「スイミー」
 - 研究授業（7月1日）～近文小（実践研究発表会）3年算数「表と棒グラフ」4年算数「面積」
- 7月19日 第1回推進地域連携協議会 研究授業～朝日小 4年国語「自分の考えを伝えるには」
- 研究授業（7月20日）～朝日小 1年音楽「どれみでうたったり，ふいたりしよう」
5年社会「米づくりのさかんな地域」
- 第4回合同研修会（7月27日）～朝日小実践発表会 提案授業（3年算数，6年道徳）構想打ち合わせ
- 第5回合同研修会（8月24日）～提案授業指導案検討①
- 研究授業（9月6日）～大有小（実践研究発表会）1年道徳「はしのうえのおおかみ」
4年道徳「イモリが元気だと雨がふる」
 - 研究授業（9月8日）～青雲小 3年理科「昆虫調べ」
- 第6回合同研修会（9月8日）～提案授業指導案検討②
- 研究授業（9月9日）～朝日小 1年図工「いろいろななはこから」
2年国語「つたえたいことをはっぴょうしよう」
- 第7回合同研修会（9月20日）～提案授業指導案検討③
- 研究授業（9月26日）～永山西小 5年国語「明日を作るわたしたち」～よりよい生活を実現するための提案書を書こう
- 第8回合同研修会（10月11日）～新町小 提案授業プレ研，研究協議
- 第9回合同研修会（11月4日）～「朝日の教育」実践発表会
- 公開授業～8授業（アクティブ化シートBを活用）
ALPS提案授業～2授業（アクティブ化シートAを活用）
3年算数「三角形」，6年道徳「中学校へ羽ばたく自分を見つめよう」
- 研究授業（11月8日）～青雲小（実践研究発表会）1年算数「ひきざん」
6年算数「拡大図と縮図」
 - 研究授業（11月11日）～新町小（実践研究発表会）1年国語「本はともだち」
5年国語「すぐれた表現に着目して，物語のみりよくを伝え合おう」
- 第10回合同研修会（11月18日）～提案授業の成果と課題，研究のまとめについて
- 研究授業（11月24日）～永山西小（実践研究発表会）
1年国語「しらせたいな，見せたいな」
4年国語「説明のしかたを工夫して，わかりやすく伝える文章を書こう」
- 第11回合同研修会（12月14日）～研究報告書（改善指導案）第一次集約
- 第12回合同研修会（1月12日）～研究報告書（改善指導案）第二次集約
アクティブ化シート改善検討
- 第13回合同研修会（1月19日）～研修報告書 I・II最終確認，III実践資料集完成
- 1月31日 第2回推進地域連携協議会 AL研究報告会，研究報告書発行
- 第14回合同研修会（2月 日）～活動反省

3 「アクティブ化シート」の実践化

昨年度示された教育課程企画特別部会『論点整理』では、ALを「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」と定義している。また文部科学省用語集では、ALは「教師による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」と記している。つまり、暗記・再生授業（教える授業）と思考・発信授業（考える授業）とをうまく組み合わせて「アクティブ・ラーニングを取り入れて、『学びを広げていく』（溝上慎一 京都大学高等教養研究開発推進センター教授）授業改善が求められている。しかし、授業をALにすることが目的ではなく、あくまでも『学習目標を達成するための学習法である』ことを忘れてはいけない。

アクティブ・ラーニングの視点とは、

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す

授業改善の視点である。

- ◆学ぶことに興味を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ◆子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛りに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかどうか。
- ◆各教科等で習得した概念や主体的な学びの過程が実現できているかどうか

（『学習指導要領改訂の視点』文部科学省より）



子どもの思考の流れを大切にしたい子ども主体の授業づくり
教師がねらいを明確にし、見通しをもった授業づくり

本研究では、子どもが主体となって学習目標を達成していくために、昨年度作成したアクティブ化シートを基に、国語科、算数科、理科、社会科、音楽科、図画工作科、道徳科、総合的な学習の時間、の様々な教科・領域で34（プレ研含む）の授業実践を行った。

指導案を作成する際には

- ①育てたい「資質・能力」を明確にする。
- ②その「資質・能力」と「単元の目標」とを関連付ける。
- ③それを「どの場面で」「どのように」身に付けさせるのかを計画する。
- ④そのためにはどのアクティブ化シートを活用することが効果的か選択する。
- ⑤どのようなALのポイントを取り入れるのかを明確にする。
- ⑥取り入れるALのポイントを手立てとして具体化する。

以上のような手順を基本に、アクティブ化シートを実践化した。（「Ⅲ 実践資料集」参照）

(1) 「アクティブ化シートA」の実践化における成果と課題

成果

- ①育てたい資質・能力を意識することで、単元のねらい、本時の目標・評価がぶれない授業を展開できる。
- ②単元意識をもちやすくなる。
- ③単元を通じた問題解決的な学習展開の充実につながり、毎時間の学習で「何をすべきか」を子どもが明確にもてるようになる。

課題

- ①このシートに沿って構成するのは難しい教科があった。教科に合わせて構成を変化させたり、改善したりする必要がある。

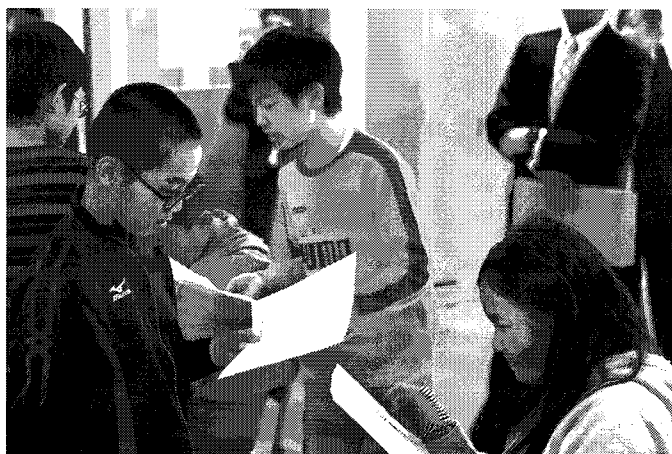
(2) 「アクティブ化シートB」の実践化における成果と課題

成果

- ①場面ごとに分かれているため、重点化するポイントが分かりやすい。
- ②日常の授業を改善しやすい。
- ③グループでの学習と一斉での学習の適切なバランスをとることによって、十分な理解と思考の活性化につなげることができる。
- ④ICTを効果的に活用することで導入が短時間になり、子ども主体の活動時間や子どもの思考の時間を確保することができる。

課題

- ①「対話」重視の学習となったときにねらいが達成できたのか、「評価」の在り方が今後の課題である。
- ②子どもたちが活発に学習に取り組むようになってきたが、子ども一人一人に目を向けたときに、果たして資質・能力が育成されているのか分かりづらい。



【朝日小6年道徳科「中学校へはばたく自分をみつめよう」】
友達からの付箋紙をもとに自分の長所について見直し、友達と交流する様子

(3) ALの視点を取り入れた授業づくりのために

今年度ALの視点を取り入れた授業を行い、昨年度示した「学級経営の重要性」について再確認した。特に「何でも言い合える学級づくり（心のつながり）」「どの学習にも通じる学習規律が身に付いていること（学び方の定着）」が基盤となることが明らかとなった。

そこで、どの授業にも共通した「ALの視点を取り入れた授業を行うための心得」をまとめた。

ALの視点を取り入れた授業を行うための心得

1 指示（説明）をゼロに近づける

- ・極力、教師から話をしない。
- ・授業中の会話比率を子ども優位にする。（子ども：教師＝2：1）
- ・「学習メニュー」の提示等で教師の言葉を省く。

2 子どもが主体である意識をもつ

- ・「教師」と「子ども」の間だけで会話をしない。（×教師による挙手指名のみ）
- ・「子ども」から「子ども」へ向かって話をさせる。（先生に向かって話させない）
- ・子どもによる挙手指名やリレー発言などが有効である。

3 子どもが「浸る」場面をつくる

- ・子どもが学習や教材、題材にじっくり向き合う時間を保障する。
- ・最も子どもの思考が活性化されるのが、授業の山場である。

4 教えるタイミングを見極める

- ・「初めに教えて、その後にやらせる」から「させている中に教えるタイミングがある」への発想転換。
- ・子どもが課題をうまく解決できないときこそ学ぶ意欲がMAXである。

5 構造的な板書を心がける

- ・子どもの思考の流れの跡になるように。

4 「思考アクティブ化シート」

授業実践を重ねていく中で子どもたちに表面上活発な動きを求める授業が多く見られ、改めて、「子どもの思考をより活性化させる」ことを強く主張することが重要であると考えた。そこで、授業実践を通して明らかになった成果や課題を基にして、アクティブ化シートを「思考アクティブ化シート」として改善した。

「思考アクティブ化シート」とは、

子どもの思考をより活性化させる

- 授業改善のヒント集である。
- 授業をパターン化したり、一つの型にはめたりするものではない。
- 教師が単元や授業のねらい、発達段階、児童の実態によって取り入れる視点を選択したり、軽重をつけたりするための『よりどころ』となるものである。

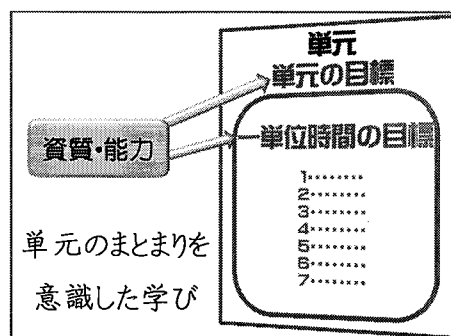
ALの視点で学習過程を改善した「思考アクティブ化シートA」は、単元構成を強く意識して工夫し、主に新たに単元開発を行う場合に有効である。「思考アクティブ化シートB」は、一単位時間における具体的な指導（手立て）を工夫し、日常の授業改善として「ちょっとALを取り入れたい（ちょいアク）」という場合に有効である。

(1) 思考アクティブ化シートA～「単元開発」用

「主体的・対話的で深い学び」は、一単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元や題材のまとまりの中で、子どもたちが「何ができるようになるか」を明確にししながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要になる。

単元を通して育てたい資質・能力をどの段階のどの時間で、どのように身に付けさせるかを明確にすることで単元を通して計画的に手立てを工夫することができると考えた。

「思考アクティブ化シートA」は、一単元の中で問題解決的な学習がスパイラルにつながりながらより質の高い学びとなっていく学習過程を創り出すものである。小単元（『次』）毎に問題解決的な学習が展開されるが、まとめ・振り返り場面に求められるねらいが異なる。自分は「何を」分かったのか、自分の学びに「誰の」「どんな考え方」が影響しているのか、学んだことがこれからどのようなことに「活用できるのか」、どのように「生活とつながっているのか」等、単元のねらいに沿って、学びがつながっていくように意識し、学習課題を見直していくことが重要である。教科等の特性、単元の目標により、「何『次』にするか」「『次』に何時間かけるか」等教師が柔軟に組み立てていくことが大切である。

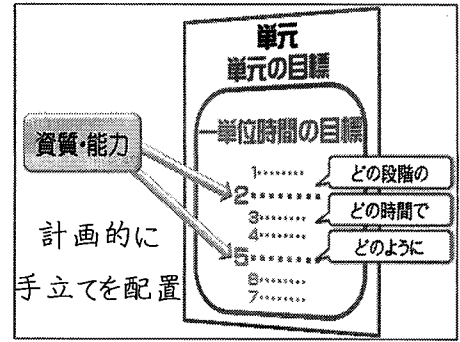


- この単元を通して「何ができるようになるか」が単元の目標である。【資質・能力の整理】
- そのために「何を学ぶか」を把握する。これが教材観である。【指導内容の把握】
- そして、それらを「どのように学ぶか」が指導観である。【内容の具体的構成】
- 『思考アクティブ化シートA』は、この指導観を工夫するためのツールである。（平成28年度朝日小校内研修資料より）

「単元構成の工夫」の具体

① **「資質・能力」と「単元の目標」、「一単位時間の目標」との関連を明確に**

→単元で育みたい「資質・能力」と「目標」との関連を明確にすることで、単元や題材のまとまりを意識した学びを展開できる。



② **「資質・能力」をどの段階でどのように身に付けさせるかを明確に**

→単元を通して計画的に手立てを工夫することができる。

③ **「事象との出会い・課題設定・解決の見通し」の場面を一層重視**

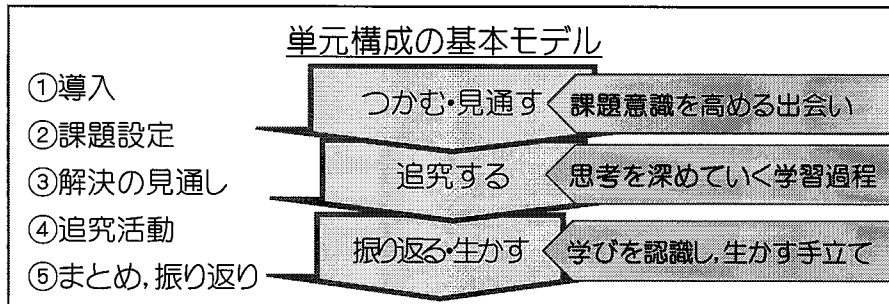
→子どもたちに強い興味・関心と課題意識をもたせ、解決の見通しをもたせることで、より「主体的・対話的で深い学び」につながる。

④ **「指導内容」をどのように構成すると「主体的に学び、思考が深まる」か**

→指導内容相互のつながりを意識しながら、指導のポイントを絞る。もちろん、そのためには仕掛けや手立てが重要になる。

⑤ **「振り返り・吟味」の場面における、成長や充実感・達成感を実感できるような工夫**

→その後の学びに向かう力や資質・能力の発揮に大きく関わるため、効果的な場の設定と手立ての工夫が重要になる。



【朝日小3年算教「三角形」】

実際に折り紙を使って、どうして二等辺三角形になるか、友達との対話しながら考えている様子

『思考アクティブ化シートA(単元レベル)』

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 (必要に応じ選択) |
|---|---|---|
| <p>事象との出会い</p> <p>課題意識をもつ</p> <p>次</p> | <p>○具体的な体験や活動を通して学習対象やテーマへの興味・関心、疑問をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈個〉 あれ？どうして？どうやったの？ すごい！おもしろい！やってみたい！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈一斉〉 みんなで解決したい！確かめたい！探したい！</p> </div> | <p>①子どものよりどころ(日常生活、生活経験、既習事項等)を事前調査等で把握する。</p> <p>②実体験(本物に触れる、見る、やってみる)や間接体験(資料や映像を活用)等共通体験場面を設定する。「ずれ」「あこがれ」「可能性」を感じさせる。</p> <p>③必要な場合は、基礎情報を集めさせる。</p> <p>④「発問」や「環境構成」を子どもに課題意識、目的意識が生まれやすいように工夫する。</p> <p>⑤子どもにとって「学習する必然性のある」「目的が明確になる」課題となるように工夫する。課題の共有化と協働で学ぶ意欲化を図る。</p> |
| | <p>*単元を通した「深い学び」につながる課題(単元のゴール)を明確に設定する。</p> | |
| <p>解決への見通しをもつ</p> <p>追究解決</p> <p>まとめ 振り返り</p> | <p>○自らが解決すべき課題を明確にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈個〉 ～をしらべたい。～を確かめてみたい。</p> </div> <p>○学習課題追究解決への見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈個〉 ～すれば解決できそうだ。～を使って調べたい。～するためには～を知りたい。～するのにこれくらいの時間がほしい。</p> </div> <p>○計画を基に主体的に追究し、解決活動を行う。</p> <p>○協働的な学びを通して学びを深めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈個〉自分「何を」分かったのか ～は分かったけど、それなら～は？</p> </div> | <p>⑥〈個の思い〉から、〈学級全体の課題〉へと収束し課題を把握させる。(子どもの言葉を大切に)</p> <p>⑦学習の(ゴールへの)方向性や解決の方法、追究観点等のイメージを子どもにもたせる。(教科や領域に応じた見通しの内容や方法を選択する)</p> <p>⑧具体的な学習計画を子どもと共に立てる。</p> <p>⑨単元を通して育てたい資質・能力に沿って、調べ方、学び方を提示したり、子どもが(対象や方法を)選択したりする等、個に応じて対応する。</p> <p>⑩追究活動は、対話的な学習を意識して進め、まとめ方や小単元のゴールを意識させる。</p> <p>⑪追究活動では、試行錯誤できるように十分な時間を設定する。</p> <p>⑫目的に合わせて学習形態やグルーピングを工夫する。(必然性、目的意識、参画意識を重視する)</p> <p>⑬子どもの思考のスタイルや流れが「見える」ように工夫する。(付箋紙、ICT、各種ツールの活用)</p> |
| <p>新たな課題設定 見通し 追究解決</p> <p>二 次</p> <p>まとめ</p> | <p>○既習事項(小単元の追究)を基に、新たな課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈一斉〉 そうなんだ！わかった！できた！ でも、自分ならこう考えるな…？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈ペア・グループ〉対話を通して学ぶ ～は～ということだったよ。～するためには～すればいいんだ。～さんが言っているのは～ということだね。これでいいのかな？他に方法や考えはないかな？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈一斉〉妥当性の検討、新たな知の創造 つまり～ということだね。例えば～だね。～ということが明らかになったね。</p> </div> | <p>⑭できるようになったこと、分かったことを基に、新たな課題を設定する。(子どもの主体的な学びを大切に)※教師の都合だけで進めない</p> <p>⑮具体的な追究計画を立て、解決への見通しをもつ。</p> <p>⑯必要な情報を集め、課題に即して思考ツール等を活用し整理する。「思考の流れ」が見えるように工夫する。</p> <p>⑰課題に即して、集めた情報を分析する。子どもの思考のスタイルや流れが「見える」ように工夫する。(付箋紙、ICT、各種ツールの活用)</p> <p>⑱「子どもの見取り」を適切に行い、個に応じた目標達成への支援を具体的に行う。</p> <p>⑲自分の考えをしっかりとらせてから話し合わせる。</p> <p>⑳「ゆさぶり発問」や「本質的な問い」を工夫し、熟考させる。(批判的思考も重視する)</p> |
| | <p>*単元のゴールとしての子どもの変容した姿を設定する。</p> | |
| <p>振り返り 三 次</p> <p>吟味</p> | <p>○単元を通して学んだことの意味を考え、自分の学びの成果を自覚する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>〈個〉概念的意味を考える そうか。～はこういうことだったんだ。 ～だけではなく～から考えると～だね。</p> </div> | <p>㉑交流場面が自力解決の集合体にならないよう、対話的交流が生まれるように工夫する。</p> <p>㉒学びの自覚化を促し、学びの有用感もてるように工夫する。生活とのつながりを重視する。</p> <p>㉓自分の獲得した知の妥当性と有用性を批判的に評価し、社会とのつながりを意識させる。</p> <p>㉔各教科等の特性に合わせた深い学びを整理する。</p> |

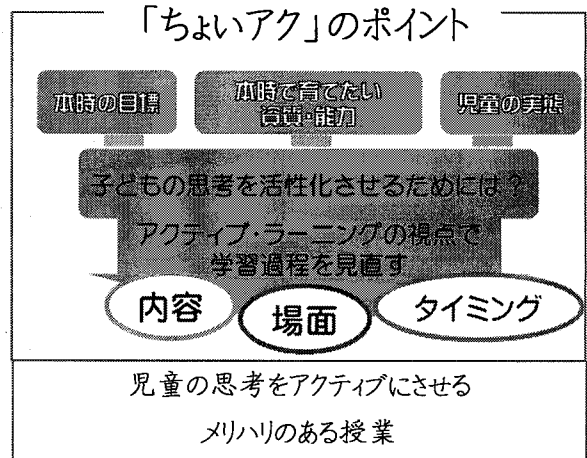
*次構成は指導時数や領域・内容構成により柔軟に考える。

(2) 思考アクティブ化シートB～「日常の授業改善（ちょいアク）」用

アクティブ化シートAを活用して、全ての単元を新たに開発をし、指導していくことは指導時数の問題や教師の労力の点から現実的ではない。

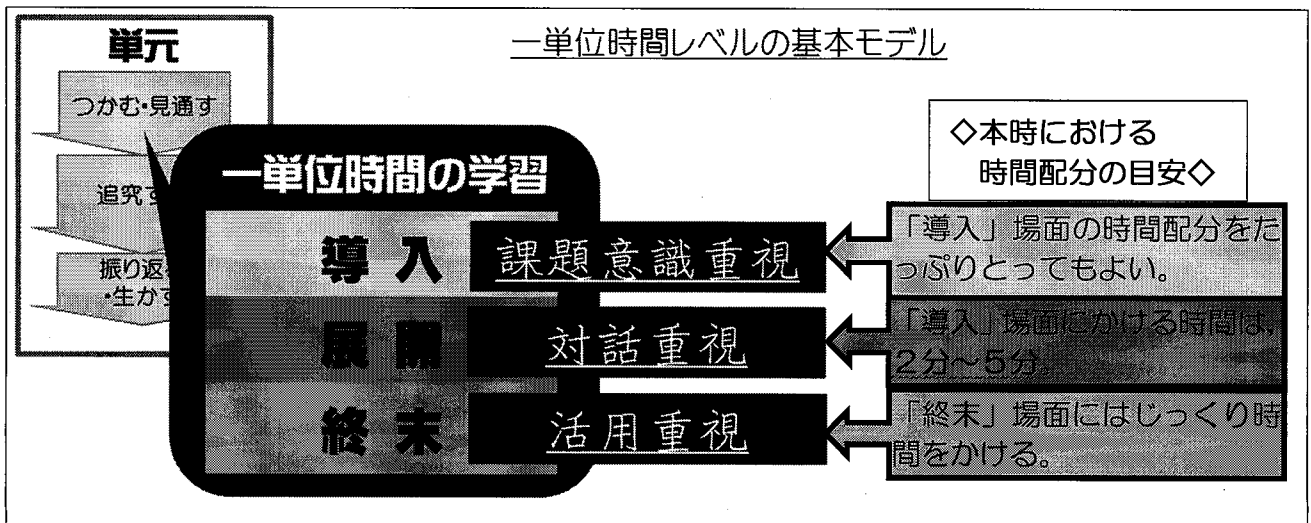
そこで、日常の授業をちょっとだけアクティブ化する「ちょいアク」を可能にするのが「思考アクティブ化シートB」である。「ちょいアク」とは、「本時で育てたい資質・能力」「本時の目標」や「児童の実態」を踏まえ、ALの視点を適切な内容・場面・タイミングで取り入れることにより、子どもの思考を活性化させることができることである。そのためには、一単位時間で今までより

「知る」「考える」「行動（体験・調査等）する」場面に軽重を付けた柔軟で大胆な、メリハリのある授業を展開していくことが重要となってくる。そこで、一単位時間レベルの学習過程を「課題意識重視」、「対話重視」、「活用重視」の3つの場面に分けた本時案のモデルを作成した。



- この一単位時間で「何ができるようになるか」が本時の目標である。 【資質・能力の整理】
- そのために「何を学ぶか」が本時の学習内容である。 【指導内容の把握】
- それらを「どのように学ぶか（学習の流れや手立て、教材や資料、教師の発問や学習形態などの工夫）」について具体的に示したものが本時案である。 【内容の具体的構成】

（平成28年度朝日小校内研修資料より）



①課題意識重視【思考アクティブ化シートB-I】

主に単元の「つかむ・見通す」段階で使われる。

「主体的に学びに向かう姿」を重視した授業



単元の導入場面の授業を想定すると、この時間では強い課題意識をもたせ、単元を通してその課題意識を持続させることが非常に重要である。

これまで以上に、単元で育てたい資質・能力を意識した子どもの実態把握を行い、未知の体験や既有知識では分からない、対処できないような「ずれ」との出会い、子どもが試行錯誤し

ながら、「できるようになりたい」「分かってほしい」「もっとやってみよう」と強い意欲・動機付けとなる出会い等、学ぶ意欲を引き出すような「事象との出会い」を工夫することが大切である。

また、追究する段階で主体的な学びが展開されるためには、「解決の見通し」（方法、内容、ゴール等）を個々がもたなければならない。あくまでも子ども主体であるが、子どもの実態を把握し、「解決の見通し」の手立てを教師が多様にイメージし、準備しておくことが大切である。子どもが「好きなように」「やりたいように」学習を進めるのではなく、ねらいに沿った適切な学習になるよう教師が意図的に仕組んでいくことが大切である。

②対話重視【思考アクティブ化シートB-II】

主に単元の「追究する」段階で使われる。

「対話を生かして課題を追究する姿」を重視した授業



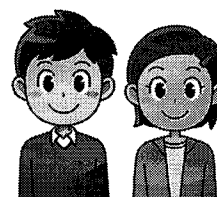
子どもたちは、同じ経験をしていても、また同じ課題について思考していても、その状況の「意味」を共有できていないことがある。対話は、この意味のずれをすり合わせ、共有していくプロセスである。調べたことやできるようになったこと等を友達に伝えたり、互いの意見を伝え合ったり、考えをぶつけ合ったり、互いの共通点や相違点等について話し合ったりすることで、身に付けた知識や技能が一層定着すると

ともに、新たな考えが生まれ、思考が広がり深まると考える。そのためにも、ALの視点を取り入れた授業では、対話する場面が重要である。

対話を成立させるためには、主に4つのかかわりが考えられる。

①子どもと子どもとの対話

子ども同士が関わる時には、単なる「発表会」にならないよう注意して、「受信⇄発信」を子ども同士で絶えず行えるような交流の場面が必要である。「思考しながら発信し、受信しながら思考する」サイクルが積み重ねられることによって、必要な資質・能力が育成されていくと考える。教師から



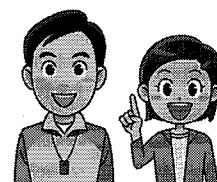
「教えてもらう」のではなく、子ども同士が対話しながら気付き、思考が広がったり、思考が深まったりしながら、子ども自身で「考え、獲得していく」学びの実現につながる。そのためには、日常的に対話する場面を経験させることが不可欠である。子ども同士の対話を中心に学習が成立するということは、教室内の「学び合う関係」がよりよいものになっていくということにもつながる。

しかし、ただ対話場面を学習に位置付ければよいということではなく、話し合うメンバーの構成（追究視点の同質性や異質性、学習レベル、人間関係等）や学習形態（一斉、グループ、ペア、環境構成（机の数・配置）等）を教師は常に配慮する必要がある。また、「話す」ことが中心となると話し合う方向性がぶれたり、思考が混乱したりすることがあるため、思考ツールを活用することで自分や友達の思考を可視化し、より活発な交流を促すことができる。子ども同士の対話を中心に学習が行われている場合には、教師からの指示・説明等の発言は極力避け、子どもの困り感に対応したり、全体をコーディネートしたりする役割に徹することも必要となる。

教師が事前に子どものもっている情報を押えた上で、意図的に関わらせることが重要である。

②子どもと教師との対話

教師は「リーダー」であり、「コーディネーター」であり、「ファシリテーター」である。教師が「転ばぬ先の杖」になってはいけない。子どもが困り感をもったり、思考が停滞したりするタイミングで適切に関わることが大切である。教師の声掛けにより、子どもの視野を広くさせたり、多様な考えに触れさせたりするのである。教師の「問い返し」「本質に迫る発問」等、教科のねらいや本質に迫る声掛けが「深い学び」につながる。



子どもと教師との対話には発達段階によってそれぞれ役割がある。低学年では、子どもは教師とつながり安心感を得ようとする。教師が子どもと丁寧に関わることで、子どもは教師との太いつながりの中で学習に専念することができる。中学年では、教師は「〇〇さんと同じ考えだね。」「〇〇さんは～考えているみたいだけ



ど、同じように考えた人はいないかな？」等と、教師を中心として子ども同士をつなぐ、ネットワークの役割があると考え。高学年では、子ども同士のつながりがより太くなるので、教師は集団活動そのものに参加せず、中立の立場から活動の支援をする。教師とのつながりが弱くなった中でも学習が成立していく。このように発達段階に応じた子どもとの対話の在り方について意識することが大切である。

また、これからは個に応じた関わり方にきめ細やかさが求められる。子どもによって声掛けの量や質、内容、タイミング等を計りながら、どの子どもにも資質・能力が育成されるように意識することが大切である。

③多様な考えとの対話

地域の人との関わりの中で生まれる「対話」や、教科書・資料との「対話」、先人の知恵との「対話」では、多様な考えと対話することができる。多様な考えと対話することで、必要な考えを調査・収集、整理・分析したり、吟味したりして、自分なりの解釈や概念をもつことができる。課題に応じて効果的な「対話」を選択することが大切である。

④自分との対話

input（教えられる）中心の学習では、自分との対話が乏しくなりがちとなり、知の更新は難しい。単元の振り返り場面だけでなく、一単位時間の中でも自分に浸り、自分なりの学びの整理をすることが「深い学び」につながる。子ども同士との対話や多様な考えに触れた後は、課題解決について熟考する自分との対話が必要である。



(3)活用重視【思考アクティブ化シートB-Ⅲ】

主に単元や小単元の「振り返る、生かす」段階で使われる。

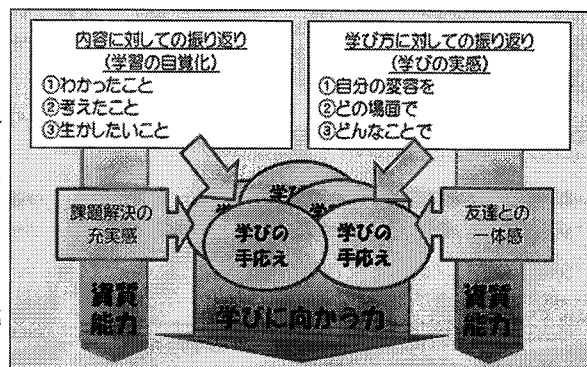
「学びをまとめる、振り返る、生かす姿」を重視した授業



昨年度は、「振り返り重視」シートとして作成したが、完結型の学習という意味合いが強くなり、学んだことをつなげる、活用するという意識がもちづらいものであった。そこで、今年度は「今までの学びを自分なりに整理し、まとめる」「自分の学び方を振り返る」、「学んだことを踏まえてこれからの学びや生活、社会へ生かす」等、単元の中の位置付けや学習のねらいに対応できるシートへと改善した。対話する場面で得た知識を、しっ

かり自分のものとして確立するためには、文字言語を中心とした振り返り場面への質的変換がとても重要である。また、振り返りの要素として、「何ができたか、分かったか」の内容に対する振り返り（学習の自覚化）に加えて、新たな課題発見と解決の意欲化に結び付く「学び方」に対する振り返り（学びの実感）が大切である。さらに、友達との学びで得られた充実感や一体感等も含め「学びの手応え」を連続的に感じることで、より「学びに向かう力」が強まると考える。

子ども自身が学習したことが身に付いたのか実感するためには、学習のゴールイメージが示される工夫が必要である。単元や本時で何をねらいとし、どこまで取り組めば達成できるのかを、子ども自身が分かるような目標と評価の在り方、例えばルーブリックやパフォーマンス評価等について今後も研究が必要なところである。終末場面では、学習したことを振り返るだけでなく、「この学習が今後の学習や生活へ生かされる、つながる」ことを意識した授業が求められる。



『思考アクティブ化シート B-I 【課題意識重視】』

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 (必要に応じて選択する) |
|-----------------------|---|--|
| <p>導 入 20～25分</p> | <p>事象との出会い ○強い興味・関心、動機付けとなる事象と出会う。</p> <p>「?」「!」をもつ ○具体的な体験や活動を通してテーマへの興味・関心、疑問をもつ。</p> <p>課題意識の芽生え ○芽生えた思いから、学習課題へつなげる。</p> <p>課題意識をもつ ○子ども自ら解決すべき課題を明確にする。</p> <p align="center">*課題の設定「単元全体の(ゴールイメージがもてる)課題」「子どもにとって意味のある課題」</p> | <p>①子どものよりどころを把握する。(日常生活、生活経験、既習事項等)</p> <p>②直接体験(触れる、見る、やってみる)や間接体験(資料や映像を活用)等共通体験場面を設定する。 ・直接体験～ひと、もの、こととの出会い、試行活動、日常生活における困り感等 ・間接体験～過去の経験映像や様々な資料(客観的なデータ、映像等)</p> <p>③これまで自分がもっていた考えとのや違いを認識させる。</p> <p>④子どもとつながりのある(生活や思い等)課題となるように工夫する。</p> <p>⑤芽生えた課題意識を強く、明確にするために「発問」や「環境構成」を工夫する。</p> <p>⑥「対話」を通して、芽生えた思いを整理させながら、意識化させる。</p> |
| <p>展 開 10～15分</p> | <p>解決への見通しをもつ ○学習課題への解決の見通しを立てる。</p> <p>次時へのつながり ○次時からの具体的な手立てを考える。</p> | <p>*課題設定重視では、この段階が追究ではなく【見通しをもつ】段階になる。</p> <p>⑦子どもと共に具体的な学習計画を立てる。 ・既習事項、過去の経験を基に解決の方法を考えさせる。 ・追究の方法を具体的に考えさせる。 ・解決に向けて必要なものや事柄を考えさせる。 ・仮説や予想を立てさせる。(何を、どこまで達成すればよいか、ルーブリック他) ・まとめ方や表現の仕方を考えさせる。</p> <p>*課題設定重視ではこの段階がまとめではなく「次時への意欲化」になる。</p> <p>⑧次時からの学習について調べ方(対象、方法)学び方(形態、進め方)等を確認する。</p> <p>⑨ゴールイメージと毎時のねらい(ルーブリック他)の関連性をもたせる。</p> |
| <p>終 末 5～10分</p> | <p>本時の振り返り ○単元全体の見通しをもてたか、振り返る。</p> | <p>⑩課題が明確になったかどうかを振り返るための視点を工夫する。 例・自分の課題が明確になったか ・学習計画を立てるために有効だったこと、難しかったこと ・自分の今日の学びのよさ、友達のよさ</p> |

『思考アクティブ化シート B-II【対話重視】』

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点 (必要に応じて選択する) |
|---------------|---|--|
| 導 入 1～3分 | <p>課題を想起する</p> <p>○学習計画を確認したり, これまでの学習を振り返り, 課題意識の自覚化を図る。</p> <p align="center">*本時のめあて～本時の「活動内容」と「到達目標」を明示する。</p> <p>解決への見通しをもつ</p> <p>○本時のゴールイメージをもつ。</p> | <p>①「単元の学習課題との関連」を意識させる。</p> <p>②短時間で本時の課題や内容を「つかむ」ことができる工夫をする (ICT活用等)。</p> <p>③前時で未解決な内容や新たな疑問等を基に, 本時のめあてを設定する。</p> <p>④本時の目的, 学習のゴール, 方法, 時間の目安等を明確にする。</p> <p>⑤目標達成に困り感のある子どもへの「具体的な支援の手立て」を工夫する。</p> |
| 展 開 25～40分 | <p>追究・解決活動を行う</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>個人 既有知識や経験を基にして「何を」学ぶのか, 目的意識をもつ。</p> </div> <p>○計画を基に資料を集めたり, 操作したり, 体験をしたりしながら結果や情報を獲得する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ペア・グループ 共に体験する, 調べる, 伝え合う, 説明し合う, 教え合う等を行いながら, 多様な情報を共有, 整理し, 課題解決に向かう。</p> </div> <p>○自力解決を基としながら, 対話的な学習を通し, 情報の精査, 吟味を行い, 自分なりに課題に対しての考えをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>個人 何が分かったのか, できたのかを自分なりに整理して言語化する。</p> </div> <p>○解決への方向性の確認, 修正を図りながら思考の拡散と収束を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>全体 情報を共有したり, 未知のことに気付いたり, 相違点や妥当性を見付けたりしながら思考を広げ, 深めていく。</p> </div> <p>まとめる</p> <p>○学級全体で話し合いをしながら課題を解決する。</p> <p>○価値の共有化, 一般化を行う。</p> <p align="center">*本時のゴールとして期待する子どもの具体的な姿を明示する。</p> | <p>⑥思考が深まっていくように追究・解決活動に十分な時間を設定する。</p> <p>⑦対話的に学ぶ (input-output する) 過程を基本として設定する。</p> <p>⑧子どもの見取りを適切に行い, 個に応じた目標達成への支援を行う。</p> <p>⑨子どもが必要な知識や情報を獲得するための環境整備を行う (既習事項・資料・タブレット端末等)。</p> <p>⑩グループの組合せは, 事前調査や日常の見取りを基にねらいに応じて柔軟に工夫する。</p> <p>⑪子どもの思考の流れを可視化し, 情報を整理, 分析できるようにする (ホワイトボード, 模造紙, 付箋, ICT活用等)。</p> <p>⑫獲得した知識・情報と既存の知識や経験等とを関連付けて新たな考えを創り出すようにする。</p> <p>⑬話し合い活動を通して, 妥当性や客観性等の視点から納得解, 最適解を導くようにする。</p> <p>⑭「揺さぶり発問」「適用する問い」等, 本質に迫る問いかけをする。</p> <p>⑮本時の学習に関わる問題に取り組みせ, 学力の定着や一般化を図る。</p> <p>⑯自分の「学びの姿」や「学びの価値」について振り返らせ, 次の時間への意欲化を図る。</p> <p>⑰単元全体との関係を確認させる。</p> |
| 終 末 1～3分 | <p>振り返る</p> <p>○自分の「学びの姿」や「学びの価値」, 学びの定着を振り返る。</p> | <p>⑮本時の学習に関わる問題に取り組みせ, 学力の定着や一般化を図る。</p> <p>⑯自分の「学びの姿」や「学びの価値」について振り返らせ, 次の時間への意欲化を図る。</p> <p>⑰単元全体との関係を確認させる。</p> |

『思考アクティブ化シート B-III 【活用重視】』

| | 子どもの思考の流れ | 指導上の留意点（必要に応じて選択する） |
|---------------|---|--|
| 導 入 3～5分 | <p>前時までの学習を想起する</p> <p>○前時までに獲得した知識・技能等について確認し、課題意識をもつ。</p> <p>本時のめあて～深い学びにつながる、習得した知識・技能の活用や習得した知識・技能だけでは対応できないことを本時の問いとして明示する。</p> <p>解決への見通しをもつ</p> <p>○既習の知識と組み合わせて課題を解決するために必要な情報を選択し、解決への方向や方法を見通す。</p> | <p>①本時の追究意欲や学ぶ必然性に関する知識・技能について確認する。</p> <p>②既習の知識だけでは解決できない新たな事実を提示することにより、課題解決への意欲をもたせる。</p> <p>③課題解決のために必要な条件などを明らかにする。</p> <p>④子どもがよりどころとなる資料や映像、助言等を行う。</p> |
| 展 開 20～35分 | <p>追究・解決活動を行う</p> <p>個人 必要な資料を集めたり、操作したりして得られた結果や既習事項を整理、比較、分析等を行いながら考えをもつ。○既習事項を確認する。 (自分とつながる)</p> <p>ペア・グループ 解決した方法や内容についてグループ等で表現し合い、自力解決した内容の修正や補強を行う。○対話的な学びを通して、比較、関係付け等を行いながら、自分なりの考えを見直す。 (多様な考えとつながる)</p> <p>全体 課題解決に向け、学級全体で既習内容や技能だけでは解決できなかったことについての考えを交流し合い、学習課題を解決する。○対話的な学びを通して解の妥当性、共通性、客観性等を総合的に評価して新たな知を形成する。</p> <p>個人 自らの言葉で課題解決した内容をまとめる。○自分の獲得した新たな知を言語化する。 (概念的知識としてつながる)</p> <p>まとめる</p> <p align="center">*獲得した知識を教師の意図的な意味付けを反映させ、一般化するよう工夫する。</p> | <p>⑤見通しの段階で提示された方法や既習内容・必要な資料等を示しながら、個々に一定の自力解決が図られるよう配慮する。</p> <p>⑥グループ内での発表会にとどまらず、方法や内容を互いに評価できるよう、短時間で視点を絞った交流とする等の工夫を行う。</p> <p>⑦個別に解決した内容が関連付くような問いや資料提示を行う。</p> <p>⑧解決した内容を揺さぶったり、視点を変えた見方を促したりするような資料や事実の提示を行い、思考が広がったり、深まったりするようなかかわり方をする。 (ゆさぶり発問、真を問う発問等)</p> <p>⑨課題に対して集団解決した内容を自分の言葉でまとめられるようにする。</p> <p>⑩生活や社会、未来とのつながりを意識した働きかけを行う。</p> |
| 終 末 3～5分 | <p>自覚化する</p> <p>○獲得された知識・技能や身に付けた資質・能力を自覚したり、共有したりする。</p> | <p>⑪身に付いた資質・能力を自覚し、学びの有用感があるような自己評価を行う。</p> <p>⑫各教科の特性に合わせた「深い学び」を意識した働きかけを行う。</p> |